



テキスタイルの良さを製品の良さに

山田裕司・山長（株）社長



会社概要

- 業務内容 紳士並び婦人服地製造販売、製品OEM
- 創業 1909年(明治42年)
- 設立 1959年(昭和34年)
- 最新年商 約10億円
- 本社 愛知県一宮市奥町字蘇東55番地
- 従業員 20名(含むパート2名)
- ブランド Primo bene

同社は初代山田長次郎氏が1909年に岐阜県笠松町で創業した歴史のある会社で、今年創業94年に当たる。1931年（昭和6年）に現在地に移転、1959年に設立した。1973年（昭和48年）に現社長父・山田益三氏が3代目となり、東京、札幌、福岡などに営業所や出張所を開設、業容を拡大した。

1982年（57年）に社名を山長毛織から現社名の「山長」に変更、翌83年には社屋を建設（現ビルは平成元年建設）している。益三氏は国内で販路を拡大するほか、海外輸出も意欲的だったが、欧州テキスタイル展の岐路、成田空港で突然倒れ、不帰の人となった。妻の悦子さんが、急遽社長に就任、1997年（平成9年）裕司氏が社長に就任するまで、社業を支えた。

山田さんは1958年（33年）生まれの45歳。持論は「チャレンジ」で新たな事業領域開発に意欲的だ。もちろん「本業を固めつつ、攻める」というもの。若手経営者としてリーダーシップを発揮している。

最新年商の内訳は紳士服地60%、婦人服地・製品（OEM中心）40%だが、紳士服地はスーツ向け70%、カバーオールを含むカジュアル素材30%で、最近ではカジュアル向けが拡大している。輸出にも意欲的で、「メゾンルートに直接売り込む」ことを主眼に、年2回開発素材を提案している。

同社の知名度を飛躍的に高めたのが、経済産業省の繊維川中「自立事業」の初年度認可会社になったことだ。Primo bene(プリモ ベーネ＝最高に幸せの意味)で35～45歳をターゲットにした婦人服を展開する。山田さんは「生地が欧州で評価されても、値段が高く商売につながらないジレンマがあった。日本でも同様で、それなら欧州で評価された生地を自社で製品化しようと決意した」と語る。

このプロジェクトのための「ナイスミドルネットワーク」も結成した。山長の新たな挑戦の第一歩である。山田さんは5年後の姿を問われて「売り上げ構成はテキスタイル20～30%、製品70～80%」と語った。「テキスタイルの良さを製品の良さにしたい」と熱き思いを話す山田さんだった。

